シェイクハンド

第55号
H31.1

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

なやみは半分、よろこび倍増
さあ　みんなで手をつなごう!!

新年のご挨拶

一般社団法人
静岡県訪問看護ステーション協議会
会長　**渡　邊　昌　子**

明けましておめでとうございます。

昨年６月に当協議会会長に就任後、事務長、役員、会員の皆様からご支援をいただき、新たな年を迎えることができました。心より感謝致します。

少子超高齢・多死社会を迎え、これまでと同じとはいかない変革の時代を迎えました。県民の安全・安心な在宅療養環境を確保するためには、訪問看護サービスの機能拡充と基盤が求められています。人材活用等連携推進や、施設・在宅におけるチームケアの必要性、看取り等、常に思考し、課題に継続して取り組むことが重要です。

今年も会員の皆様の声を大切に、訪問看護の質向上と働き続けられる環境作りに注力して参ります。よろしくお願い致します。

副会長　**岡　　慎一郎**

新年のご挨拶を申し上げます。

昨年12月に静岡県で開催された日本在宅看護学会において、様々な課題を抱えながら前向きに取り組んでおられる皆様方の姿に感銘いたしました。訪問看護の推進に向けて微力を尽くしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

副会長　**上　野　桂　子**

明けましておめでとうございます。

昨年は事務所の移転等にご協力ありがとうございました。同時改定は皆様への影響はいかがでしたでしょうか。地域包括ケア推進の中で住み慣れた地域で最期まで暮らすことを支えるＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング）の愛称が「人生会議」と決まりました。11月30日（いい看取り・看取られ方）を「人生会議の日」とし人生の最終段階における医療・ケアについて考える日となりました。医療と生活の両方を支えている訪問看護は地域で生活している療養者を支えるときに、ＡＣＰのプロセスに沿ってケアチームと協働することが望まれます。本年も皆様と力を合わせて協議会を運営していく所存ですので宜しくお願い致します。

事務長　**鈴　木　恵　子**

明けましておめでとうございます。

昨年度は「訪問看護ステーション実態調査」にご協力頂きありがとうございました。年度内には結果をお届け致します。

今年度は２回目となります「利用者満足度調査」を実施致します。自事業所の評価としてご活用下さい。

地域包括ケアのシステムの中で、訪問看護の役割は拡大し、期待も大きくなっています。看護の質の維持・向上を図るためには研鑽が必要になります。協議会としては、皆さんが少しでも研修に参加しやすいように開催時間や会場等の検討をし、学びの場の提供を行っていきます。地域の期待に応えられるように、皆で力を合わせていきましょう。

在宅ケア普及啓発　県民フォーラム（中部）

訪問看護ステーションあおむし　原　とのこ

テーマ：「自然に、穏やかに、最期を迎えるために」
～最期まで自宅で過ごす 静かで平穏な在宅看取り～
開催日時：平成30年11月10日(土) 13時15分～16時30分
会　　場：静岡労政会館ホール
参 加 者：98名

今回の県民フォーラムは「自然に、穏やかに、最期を迎えるために」と題して開催、98名の参加がありました。医師・訪問看護師が45名、一般参加が53名でした。一般参加が多く最期まで自宅で過ごすことへの関心が高いことが分かりました。

第１部の基調講演では「老いとともに考える幸せな人生の終い方」と題して、東京都世田谷区立特別養護老人ホーム医師の石飛幸三先生に講演をして頂きました。若いころは医師として「治すことしか考えていなかった」が、歳を重ねるごとに「病院の先の世界はどうなっているのか」と考えるようになり、ホスピスに興味を持ち、世界最初のホスピスに施設見学に行かれたそうです。

「食べないから死ぬ」のではなく「死ぬのだから食べないんだ」という三宅島の自然死の話には納得してしまいました。その他にも症例を通して終末期のあり方について話がありました。

先生の話の中で、「死への備えが出来ているか？」という提言がありました。後期高齢者被保険者証の裏側に「平穏死宣言」、延命処置の有無の希望を付けるという提案が実現できればと思いました。

現在お勤めの施設での話も心に残りました。ある入所者がいつも棚の上に置いてあるビールを指さしている。お酒、特にビールが大好きだったが、嚥下障害があり、６年もの間ビールを口にすることが出来ないでいた。誤嚥の不安もあったが、飲ませてみたところ、おいしそうに飲むことができたとその時の写真が紹介されました。ビールを手にもった写真は万遍な笑みで、ビールを飲みたいという思いを遂げられた顔が印象的だったという話でした。限りがあるから今が大切、今をどう生きていくかがとても大切であると改めて感じる講演でした。

第２部のシンポジウムは「がん末期～ご本人ご家族の意向に沿った穏やかな在宅看取り」と題して、シンポジストとしてがんで亡くなられた方の家族・在宅医・ケアマネジャー・通所施設の方・訪問看護師が出席して行われました。ケアマネジャーから事例紹介があり、「認知症が見つかった時」「がんが見つかった時」「少し時間が経過した時」「旅立ちの一か月前」「在宅医療の開始」とその都度の様子について各職種の方と家族から話がありました。奥様は、がんのことよりも認知症との戦いだったと話していました。石飛先生も認知症の方を家で見ることは地獄だと話されていましたが、本当に辛い日々を過ごしながらショートステイやデイサービスを利用したりして対応したそうです。療養型病院に入院する方向でしたが、本人の希望である「家に居たい」という気持ちを優先して入院を留まり、大変悩みながらも妹さんや娘さんの協力や支えを得て、自宅で最期まで看ようと決断されました。

在宅医や訪問看護師が介入したのは、最期のわずかな期間でしたが、家族にとってはとても大事な時期に医療関係者が入ってくれたことで安心できたと話がありました。

実際に家で看取りを行った体験談は、会場に見えた方々の参考になる話でした。今後わが身に降りかかるかもしれないと感じた方もいたのではないでしょうか。

今回のフォーラムで、自然に穏やかに最期を迎えるためには、色々な職種との協働と切れ目ない連携が必要であると感じられたのではないかと考えます。在宅療養や家での看取りが今後増えていくと予想される昨今の時代背景を考えると、参加された方々にも、とても参考になるフォーラムだったと思います。

訪問看護ステーション看護師研修【管理者研修】

訪問看護ステーションほほえみ　渡　辺　澄　子

訪問看護事業所の責任者を対象とした管理者研修、管理者としての人材育成や管理運営に必要な知識を学び、適切な管理運営を目指します。今回は１日目の研修「ハラスメントや暴力への対応」について、受講者の研修報告です。

会　　場：１日目　静岡県男女共同参画センター　あざれあ501
　　２日目　静岡県総合研修所　もくせい会館　第１会議室
研 修 日：平成30年10月20日（土）、11月３日（土）
研修内容：１日目　・ハラスメントや暴力への対応
　　２日目　・実務と経営の基本　　・在宅における接遇マナーと苦情対応について
受 講 者：23名

今回の研修は、三木明子先生によるハラスメントや暴力への対応（１；訪問に伴う危険因子の抽出、２；チーム内の意思決定、３；暴言のエスカレーションに応じた初期対応、４；場面対応、５；危険予知訓練によるチーム行動目標）でした。

“時々入院ほぼ在宅”と言われる今日、様々な病気を持った在宅療養者の増加と共に介護者の負担やストレスも増加し、それに伴いサービス事業者に対する希望や要求も大きくなり、訪問看護の利用者と提供者である私たちとの間におけるトラブルも多様化することが予想されます。今年６月、全国訪問看護事業協会が「訪問看護師が利用者や家族から受ける暴力などのトラブル」について行った調査結果が新聞に掲載されていました。それによると、回答者の約半数が訪問先で心身の暴力やセクハラを受けた経験があることがわかり、訪問看護事業所はこうした理不尽な扱いから職員を守る姿勢が求められると考え、今回の研修には期待をしていました。

訪問看護師は基本１人で利用者のお宅に訪問するため、通常でも精神的ストレスは大きく、その場で適切な判断と質の高いケアの提供が求められます。この状況の中で、苦痛を感じ、精神的ダメージを受けながらも多くの訪問看護師は前向きであり、苦痛をやりがいに置き換えていきいきと仕事をしています。

当事業所では利用者や家族から受けたささいなハラスメントも所長に報告し、ミニカンファレンスにて対応策を考えます。そしてケアマネジャーの力も借りて事態の収拾に努めますが、改善の兆しがない特殊な事例では訪問看護の継続を断念するケースもありました。

今回の研修を通し、危険と感じた際誰に連絡をするのか、どのような行動をとったらいいのかなど、ステーションでのマニュアルを作成しておくことが必要であることを改めて感じました。想定される事態への対応方法については日頃から訓練をしておくこと、暴力やハラスメントの経験はスタッフ間での共通認識としておくこと、更に想定される事態への

対処マニュアルがあれば、安心して訪問看護サービスが提供できると思いました。

ハラスメントの対応方法についてのロールプレイでは事態に対する自らの対応能力の乏しさを実感しました。その場で考え対応する力が身についていないため、事態から逃げる手段として、笑ってごまかしてしまったり、曖昧な言動や態度をしていたのではないかと感じました。ロールプレイという方法は、実際に事態に対して対応を考えることで、自分の行動を振り返ることができ、より望ましい方法を模索する機会になりました。そして、訪問看護事業所として行うサービス、行わないサービスを明らかにし、利用者と家族にはっきりと言葉で伝えることがトラブル回避の初期対応として重要であることを知りました。また、サービス提供の過程で利用者や家族が興奮したり激怒している時など危険を感じた場合は、相手との距離を置くためにサービスを中断するという行動も一つの対応であることを学びました。そして、今まで私が経験した利用者や家族から理不尽な扱いを受ける過程で、自らの対応方法によっては回避できたことも多かったのではないかと感じました。

今回の研修での学びを生かして、これからの訪問看護サービスにおいて遭遇する様々な事態を冷静に客観的に捉え、トラブルを未然に防いでいけるように心がけたいです。また、スタッフが訪問看護サービスを提供する中で、精神的につらい思いをせずいきいきと働けるように取り組んでいきたいと思いました。

ステーション紹介

東部　白鳥訪問看護ステーション

田添　直子

初めまして。白鳥訪問看護ステーションです。当訪問看護ステーションは、沼津市の新沢田に位置し、沼津ケアセンター白鳥（居宅介護支援事業所・訪問介護・通所介護・サービス付き高齢者住宅７室・創業55年の看護師家政婦紹介所）に併設して15年目を迎えております。

現在、常勤４名（兼務２名）で活動しています。概ね、このメンバーでこれまで細々とした活動を続けておりましたが、ついに体調の悪化等の理由で今年度を最後に退職したいという希望が職員から出ており、事業所としては創業以来の危機に瀕しているところです。

“困ったときの白鳥です！”というキャッチフレーズを基にして小規模でこじんまりとした手の届く温かなサービスを心掛けてきました。当社はナイチンゲールの看護理論を基にして、ナイチンゲールが看護の最終目標だと語った在宅看護を沼津市に根付かせたい、という理想を掲げて立ち上げた訪問看護ステーションです。「すべての病人が健康と回復への最善の機会を与えられる場」「その人の家庭での看護」「訪問看護師は病人を看護するだけでなく、家族が健康的に生活できるようにするための実際的な指導をする」「家族に教えているように見せないで教える」という病院の看護とは違う、人々の生活に寄り添った在宅看護を実践してきました。また「家庭にいる小さなペットは長期慢性病の病人にとってはこよなき友人となる」というナイチンゲールの言葉を基に、看板犬のホーリーとハリーがいつでもデイサービスにいます。このようなアニマルセラピーを早期より取り入れ、穏やかな療養環境を応援しています。

少子高齢化を背景とした時代の流れの中で、小規模過ぎるがゆえのジレンマに陥っています。なんとかこの危機に立ち向かって、新しい職員を確保したいと考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

次は訪問看護ステーションかみやさんです。

中部　かなで訪問看護リハビリステーション

石井　惠津子

こんにちは。かなで訪問看護リハビリステーションです。

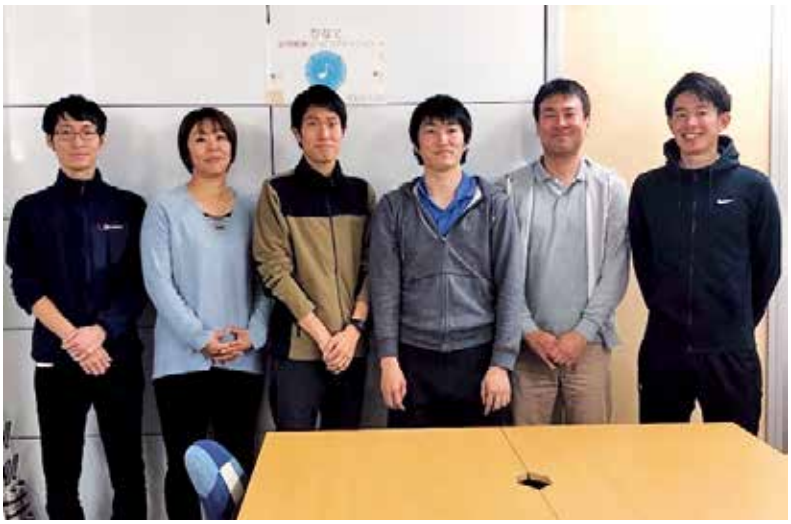
当ステーションは平成26年に設立しました。利用者の自分らしい人生を“かなで”ていけるようにをモットーに、少人数でスタートしました。地域の皆様に支えていただき、本年で開設６年目を迎えます。

ステーションは静岡市葵区沓谷にあり、葵区・駿河区・清水区と広範囲を実施エリアとしています。交通量の多い地域のため、安全第一で訪問するように心掛けています。

現在は看護師３名、理学療法士６名、作業療法士１名、事務員１名のスタッフが従事しています。療法士の人数が多い事もあり、利用者には看護とリハビリテーションの両サービスをご希望いただく場合が多くあります。看護師と療法士で連携して、充実したサービスの提供を目指しています。日々の訪問

の中で、病院の入院期間の短縮化もあり、回復期段階で在宅復帰される方も多くいらっしゃいます。予後改善のためにも看護とリハビリテーションに掛かる期待や責任の大きさを感じる場面が多くあります。

また利用者や家族は在宅での療養生活には心配事や不安も多くあります。看護・リハビリテーションにおける医療面の支援だけでなく、生活全般において気付きを増やすように心掛けています。私たちが関わる中で少しでも不安を取り除き、在宅で安定した生活が送れるよう、家族に寄り添い支援しています。



地域連携ネットワークにおいては、医療機関や居宅介護支援事業所、薬局など、地域医療・介護に尽力される方々とのコミュニケーションの場に参加し、交流の機会をいただいています。どの連携機関にとっても身近な存在となり、貢献できるよう尽力していきたいと思います。

これからも地域で長く在宅生活を支援していけるよう、スタッフ一同精進して参ります。

次はハートピアの森リハビリ訪問看護ステーションさんです。

西部　訪問看護ステーションときわ

鈴木　真理子

こんにちは。訪問看護ステーションときわです。私たちは厚生連の７つのステーションの一つであり、浜松駅から利便性も良い遠州病院の敷地内に事務所を構えています。スタッフ４名の小規模なステーションです。安心して在宅生活を送ることが出来るよう、利用者や家族の意思を尊重し、温かなサービスの提供を目指し日々頑張っています。そして、私たちは中核病院の一部署として『地域包括ケアにおける看護提供』という視点をもち、提供するサービス内容の向上を目指し、地域で認められるように努力しています。

家族の形も、生活も多様化している現在です。住み慣れた場所で安心して暮らせるように支援していくのは大変だなあ、と感じる時も多いのですが、利用者の価値観を探り、自分らしくいられる場所での生活がなるべく長く続くように、スタッフで知恵を出し合いながらチャレンジしています。いつも一生懸命な介護者の方々の負担にも相談に乗って、共感し、時には弱音を聞いて、負担感が軽減出来るよう努力しております。「ときわさんが来てくれるから安心」「とっても頼りにしています」など嬉しい言葉を笑顔で言って下さるその表情に、自信と喜びと感謝を頂いています。

これからも私たちを待ってくれている方々に感謝し、そして自分たちの看護に誇りを持ち、開設当初からの「皆に笑顔を届けたい」の理念を胸に車を走らせていきたいと思っています。

次は訪問看護ステーションはまなさんです。

訪問看護ステーション看護師研修【スキルアップ研修】

訪問看護ステーションはまな　白　井　雅　代

訪問看護事業所の職員を対象としたスキルアップ研修、訪問看護師としての知識や技術を高め、より適切な在宅医療が提供できるよう実践能力の向上を目指します。

会　　場：静岡県総合研修所 もくせい会館 第1会議室
研 修 日：平成30年９月８日(土)、９月22日(土)
研修内容：１日目　・急変時の対応
　　２日目　・漢方薬の基本
　　・訪問看護過程の展開
受 講 者：１日目　36名　　２日目　34名

私は、病棟から訪問看護に異動となり８ヶ月になりました。

毎日の報告書、次月の計画書を作成するにあたり、看護計画の立案、評価が苦手なので、看護展開に関する研修を希望していました。そこで今回、私はスキルアップ研修を受講しました。

この研修は、１日目が急変時の対応、２日目は午前が漢方薬の基本、午後が訪問看護過程の展開でした。

急変時の対応は、静岡赤十字病院の村松美代子先生による急変前兆候の研修でした。（３つの疾患別に分かれテーマを設定しました。）そのグループの中で配役を決めロールプレイをしました。私は脳梗塞をテーマにし、利用者宅を訪問し救急搬送までの過程を行いました。訪問時、いつもと様子が違い呼名しても返事がない等、脳梗塞の症状と判断したら、自分ならどう行動をとるのか、他者と比較ができて先生の助言もあったので、反省・評価する事ができました。今後に役立てようと思う講義でした。

次に静岡赤十字病院救命救急センターの池田朋美先生、名倉やよい先生から急変時の初期対応ABCDEアプローチとAEDトレーニングでマネキン人形を使い実践しました。

ABCDEアプローチでは、緊急対応の一次評価としてバイタルサインの測定と触診と聴診で心肺と神経機能の評価をするものです。それと危険な兆候を探していく事をキラーシンプトムといい、その兆候を見つけ判断、応援要請をしていきます。

報告もSBARという簡潔で分かり易く伝える報告形式があり、医師等へ的確に報告する時に役立ちます。

心肺蘇生では、反応の確認からAED機器の実践もしました。

漢方薬については、ツムラ学術員の岩井先生から歴史と頻用処方の解説、副作用についての講義でした。漢方は中国後漢の1800年前に作られ遣唐使により日本に伝えられました。頻用されている薬では、芍薬甘草湯・抑肝散・半夏厚朴湯・麻子仁丸等、便秘の方にも使われています。抑肝散は認知症の周辺症状に効果があり、人参養栄湯はアルツハイマー型認知症の食欲不振に効果があります。漢方は副作用が少ないと言われていますが、間質性肺炎になる薬もあるので、初期病状の観察が必要です。漢方薬服用にて効果的に症状緩和できるよう、援助が必要と考えます。

看護過程の実際についての講義は、地域看護専門看護師なごみST副所長の宮田乃有先生から、記録の書き方と在宅における看護過程の実際についての研修でした。看護とは何を提供していけば良いのか、と問い掛けられました。

事例により末期がんのAさん、74歳男性、るい痩あり食事摂取が少ない。そのため主治医から点滴1,000mℓの指示が出ました。ところが毎日点滴をしていると浮腫や痰が増えてきました。もっともよい状態に患者をおくにはどうしたらよいか。点滴の指示が出されても、点滴の量を考えると患者にとっては害になってないだろうか、考えることを学びました。５つの看護のものさしを教えてもらいました。

「看護展開の中で看護計画の目標は、訪問看護が利用者の何をとらえ、目指し、支援するかを伝えるメッセージ。問題点・解決策は目標に対する課題と思って書いて下さい。」とアドバイスされ、計画立案を行ったら、計画を立てる事ができました。基本に沿って行えば計画が立案できることを学びました。

まとめとして、看護とは療養者の生命力の消耗を最小にして持てる力を最大限にすること。看護過程とは目的手段を明確にして、その医療・ケアをなぜ行うのかを考えていくものです。計画立案後も実践し、記録・報告書に繋げていけるよう看護展開していき、日々の訪問で今回の研修を生かし、今後に繋げていきたいと思います。

ケアマネジャー在宅医療研修を受講して

ケアマネジャー在宅医療研修には今年も多くの方に参加していただき、75名の方が修了されました。その中から３名の方に研修の感想を伺いました。

ケアマネジャー在宅医療研修を受講して－①

居宅介護支援センターかわせみ（東部）
大　倉　浩　人

居宅介護支援事業所に勤務して数年。そんな私がこの研修を受講した理由は、在宅医療について学ぶ機会が少ないこと、そして具体的な医師との連携方法や家族に対する支援、医療保険と介護保険の利用方法の違いなどを学びたいと思ったからです。

研修は、講義・同行訪問・グループワークと三日間行われ、医師の本音を聞けたことや看護師の技術の素晴らしさに驚きました。もっと自分から積極的に訪問して、医療の現場を見ていかなくてはいけないと気づかされました。本当に自分と医療を近づけることになった研修だと振り返っています。

私が在宅の介護支援専門員をやり始め、訪問看護のサービスを導入した際、ある看護師の言動からとても残念な思いを抱いた経験があります。それからは「看護師とあまり関わりたくない」と思うようになりました。また、訪問看護事業所ごと考え方が違うのだと感じるようになりました。グループワークでは、自分の中でずっと抱いていたその思いを伝えることができ、その思いを受け入れてくれたことで、この研修に参加した意味があると感じています。

これから益々「医療」と「介護」の連携が必要となってくる時代です。そのために私は「医療」という足りない知識と自分では行えない技術は、医師と看護師を頼りにしながら、在宅支援に向けて日々努力していきます。

ありがとうございました。

ケアマネジャー在宅医療研修を受講して－②

有度地域包括支援センター（中部）
岩　森　美由紀

研修の一日目は、訪問看護の内容、予防的に利用する必要性と効果や実際の活動についての講義を受けました。訪問看護導入の効果の一つとして、利用者が受診時、医師の説明を理解できていないことが多いが、そこに訪問看護が入ることで病状や治療についての正しい情報を支援者側が共有できるという利点が挙げられます。それが適切な支援につながるといったお話はとても納得させられるものでした。

研修参加前、私は訪問看護について、具体的な医療的処置が必要な方が対象といった印象を持っていました。しかし、同行訪問実習では、医療的な処置を要するケースではなく、精神の不安定さや本人の病識が十分ではないところに、医療の専門職として寄り添い、在宅生活を支えているケースでした。

グループワークでは、訪問看護の現場を見ることで仕事内容への理解が深まり、「サービスが必要とは思ったが、自分の知識の中では合致するサービスが無く困っていたケースで、訪問看護が活用できるのではないかと思った」等の意見が聞かれました。また「何かあれば相談をしてよいと言っていただいたことはとても心強く感じた」との声もありました。

研修に参加したことで、予防の段階で訪問看護を導入する効果を学ぶこともできました。ケアマネジャーは専門職の専門性と役割をしっかりと理解し、適切なサービスにつないでいく必要があることを再確認できたと思います。

研修に参加させていただきありがとうございました。

ケアマネジャー在宅医療研修を受講して－③

聖隷ケアプランセンター和　（西部）
浅　倉　淑　子

同行訪問で、排泄ができない新生児のストマ管理・体調管理・母親の精神的な支えを目的とした訪問を体験しました。障害を持ち生まれた我が子への愛着形成を母親が築けるように、精神的な支えになるよう入り込みすぎず関わっている姿勢に、訪問看護の専門性を学びました。そして、訪問看護が母親と子どもがこれからも強く生きていくための支えになっていると感じました。

医師の講義では、まとまった休みがとれない中、学会に出席するため県外にいる最中、患者の急変で急遽戻られたことを聞き、往診してくださる医師不足の現状を具体的に聴く機会になりました。

グループワークの中で、がんの末期・難病の方を担当した時、訪問看護で病気の進行・予後の見極めが出来ることで、早めの対応に繋がっている事例がありました。また、閉鎖的な利用者・家族宅に訪問看護がまず訪問することで、社会との接点に広がりをもたらしたケースもありました。更に一度止めたデイサービスまで徐々に歩行距離を伸ばし、デイサービスで休憩させてもらえたことで、その方は自信を取り戻し、デイサービス利用再開に繋がったと具体的に紹介されました。訪問看護からも、ケアマネジャーがいる介護保険のケースは、家族状況や生活歴が明確になっており初回訪問時に入りやすいという意見も聞けました。

この研修を通して、医師・訪問看護・在宅医療者の実状を知ることができました。また、地域のケアマネジャーと支援の具体的な事例や支援方法の悩みなどを話すことで、共感や参考となるヒントが得られる交流の場となりました。お互いを知ることが連携を強めていくことに繋がると思います。

これからもお互いを知り、皆で連携し在宅療養者の支援をしていきたいと思います。

研修のお知らせ

◆在宅ターミナルケア研修　各地区の研修に申し込まれた方は、忘れずに受講して下さい。

		日　時	会　場	内　容	講　師
東部	2日目	2月16日（土） 10:00～16:00	プラサヴェルデ 407	看取りのケア ・エンゼルケア	聖隷三方原病院　緩和ケア認定看護師 福田かおり氏
				抗がん剤による皮膚障害の予防対策（基礎知識から最新情報まで）	総合ナースステーション城南 がん化学療法看護認定看護師 宮本　匡代氏
	3日目	2月23日（土） 10:00～16:00		「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」について	静岡大学人文社会科学部社会学科　教授 堂囿　俊彦氏
中部	3日目	2月2日（土） 10:00～16:00	あざれあ 大会議室	「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」について	静岡大学人文社会科学部社会学科　教授 堂囿　俊彦氏
西部	2日目	1月26日（土） 10:00～16:00	研修交流センター 401	がん末期の患者支援 ・患者とその家族との関わり方、信頼関係構築に向けて	山梨県立大学看護学部成人看護学 准教授　がん看護専門看護師 前澤美代子氏
	3日目	2月9日（土） 10:00～16:00	クリエート浜松53	死生学 ・対話を通して生と死を探求する	静岡大学大学院農学研究科　教授 竹之内裕文氏
				症状緩和　・アセスメント ・対処法　・苦痛の緩和	聖隷浜松病院　緩和ケア認定看護師 梅田　靖子氏

◆西部　県民フォーラム

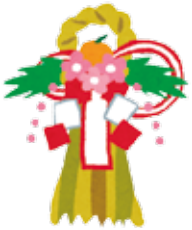
基調講演とシンポジウムの２部構成で県民フォーラムを開催します。
当日参加も可能です。お知り合いの方に声を掛け、お誘いあわせの上ぜひご参加ください。
開催日時：平成31年３月16日（土）13:15～16:30
会　　場：掛川市　美感ホール
参 加 費：無料
申込方法：電話かFAXで協議会までお申し込みください。

◆ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム

開催日：平成31年３月23日（土）・24日（日）の２日間
会　場：静岡県男女共同参画センター　あざれあ
受講料：会員１万円　非会員１万５千円　　※受講修了者には修了証を発行します。
●詳細につきましては開催案内やHPでお知らせしておりますので、ご確認ください。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
今年は猪突猛進!?
でも時々はゆっくりのんびり余裕をもっていきたいですね。
今年もよろしくお願いします。



シェイクハンドNo.55
2019年１月発行

発行所　一般社団法人 静岡県訪問看護ステーション協議会
〒420-0044
静岡市葵区西門町２－７
スズビル001　701号室
Tel 054-275-3339
Fax 054-275-3338
e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

発行人　渡邊　昌子
編集者　木原　裕美（訪問看護ステーションふしみ）東部
原　との子（訪問看護ステーションあおむし）中部
東　　ゆり（訪問看護ステーションあすなろ）西部